

平成23年3月期 第1四半期決算概要

1. 連結決算実績 (22年4月～22年6月)

(1) 全体概要 (連結会社数: 連結子会社62社、持分法適用関連会社4社) (単位: 百万m³、億円、円)

	当四半期	前年同期	増減	増減率(%)	(参考)個別決算
ガス販売量	3,547	3,082	465	15.1	3,277
売上高	3,664	3,424	240	7.0	3,177
営業利益	415	502	△87	△17.2	339
経常利益	414	523	△109	△20.8	407
四半期純利益	252	332	△80	△24.1	302
1株当たり四半期純利益	9.41	12.25	△2.84	△23.2	11.29
1株当たり純資産	301.67	301.58	0.09	-	256.30

(注1) 1株当たり純資産は22年3月期末との比較

<当四半期決算のポイント> **2期ぶりの増収減益。売上高は歴代第2位(過去最高はH20)。経常利益は歴代第4位(過去最高はH21)**
 ○4～5月の低気温による家庭用を中心とした給湯需要の増、及び景気回復を背景とした工業用需要の増によるガス販売量の増。これを受けた都市ガス売上高の増(+175億円) ○扇島パワーステーションの稼働に伴うその他エネルギー(電力)売上高の増(+60億円) ○原油高に伴うガス原材料費の増(+374億円) による営業利益減○21年度年金資産運用の改善に伴う退職給付数理計算上の差異の負担減(△129億円) による営業利益増

- 売上高は、4月から5月の気温が前年同期に比べて低く推移したこと及び景気回復を背景とした工業用既存設備の稼働増から、ガス販売量が15.1%増加したこと等によりガス売上高が6.6%増の2,817億円となったこと、及び扇島パワーステーションの稼働に伴いその他エネルギー(電力)売上高が増加したこと等から、7.0%増の3,664億円となりました。
- 営業費用は、退職給付数理計算上の差異の負担減があったものの、ガス原材料費が原油高の影響により374億円増加したこと等により、11.2%増の3,248億円となりました。この結果、営業利益は17.2%減の415億円となり、これに営業外損益を加減算し、経常利益は20.8%減の414億円となりました。
- 当四半期及び前年同期は特別損益の計上はなく、四半期純利益は24.1%減の252億円となりました。

(2) ガス販売量 (販売量は45MJ/m³表記)

	当四半期	前年同期	増減	増減率(%)		
お客さま件数	千件	10,651	10,539	112	1.1	
ガス販売量	家庭用	百万m ³	941	829	112	13.5
	業務用	百万m ³	670	652	18	2.8
	工業用	百万m ³	1,480	1,195	285	23.8
	計	百万m ³	2,150	1,847	303	16.4
	他事業者向供給	百万m ³	456	406	50	12.3
	合計	百万m ³	3,547	3,082	465	15.1
平均気温	℃	18.3	19.4	△1.1	-	

- 家庭用需要は、4月から5月の気温が前年同期に比べて低く推移した影響で給湯需要が増加したこと等により13.5%増加いたしました。
- 業務用需要も、同様に前年同期に比べて気温が低く推移した影響で給湯需要が増加したこと等により2.8%増加いたしました。
- 工業用需要は、景気回復を背景とした既存設備の稼働増等により23.8%増加いたしました。
- 他事業者向供給は、低気温影響や工業用設備の稼働増に伴う供給先事業者の需要増により12.3%増加いたしました。

(3) 収支概要 (都市ガス以外の内訳は「(4) 部門別の概況」参照。全社費用は各事業に配賦不能の営業費用) (単位: 億円)

収 益				費 用			
	増 減	増減率(%)		増 減	増減率(%)		増減率(%)
都市ガス	2,817	175	6.6	都市ガス	2,362	307	15.0
				都市ガス以外	1,217	156	14.6
都市ガス以外	1,270	169	15.3	全社費用	99	△30	△23.6
事業間内部消去	△423	△104	-	事業間内部消去	△430	△106	-
売上高	3,664	240	7.0	営業費用	3,248	326	11.2
				営業利益	415	△87	△17.2
営業外収益	59	△2	△4.0	営業外費用	60	20	50.4
				経常利益	414	△109	△20.8
特別利益	-	-	-	特別損失	-	-	-
				四半期純利益	252	△80	△24.1

(4) 部門別の概況

(単位: 億円)

	売 上 高		増 減	増減率(%)	営 業 利 益		増 減	増減率(%)
	当四半期	前年同期			当四半期	前年同期		
都市ガス	2,817	2,642	175	6.6	454	586	△132	△22.5
器具及びガス工事	340	330	10	2.9	5	△4	9	-
その他エネルギー	489	372	117	31.5	7	17	△10	△55.2
不動産	82	82	-	△0.7	21	21	-	1.2
その他	359	316	43	13.5	18	6	12	212.3
都市ガス以外	1,270	1,101	169	15.3	53	39	14	34.1

(注1) 売上高には事業間の内部取引を含んでおり、営業利益には配賦不能営業費用を含んでおりません。

(注2) 前年同期の数値は、前年同期の金額を新セグメントに組み替えた参考値です。

(5) 主要計数

	当四半期	前年同期	増 減	増減率(%)
原油価格 (\$/bbl)	81.30	52.57	28.73	54.7
為替レート (円/\$)	92.01	97.36	△5.35	△5.5
設備投資 (億円)	296	296	-	△0.1
有利子負債 (億円)	6,500	5,559	941	16.9
支払利息等 (億円)	24	27	△3	△11.4
その他有価証券評価益 (億円)	211	320	△109	△34.0
営業キャッシュ・フロー (億円)	604	680	△76	△11.1
ROA (%)	1.4	1.9	△0.5ポイント	-
ROE (%)	3.1	4.2	△1.1ポイント	-

(注1) 営業キャッシュ・フロー=四半期純利益+減価償却費等

(注2) 有利子負債、その他有価証券評価益は22年3月期末との比較

2. 通期 (23年3月期) の業績予想

<業績予想のポイント>
 ○年度当初の低気温によりガス販売量は増加したものの、直近の高気温による販売量の減少も見込まれる。このため、連結及び個別の業績予想は前回どおりに据え置き。
 ○なお、原油価格・為替レートの見通しについても前回同様に80\$/bbl・95円/\$と想定。

(単位: 百万m³、億円)

	連結決算					個別決算				
	通期業績予想	対前期		対前回(4/28発表時)		通期業績予想	対前期		対前回(4/28発表時)	
		増 減	増減率(%)	増 減	増減率(%)		増 減	増減率(%)	増 減	増減率(%)
ガス販売量	14,465	799	5.8	-	-	13,286	136	1.0	-	-
売上高	15,510	1,353	9.6	-	-	13,440	1,334	11.0	-	-
都市ガス	11,560	1,105	10.6	-	-	10,970	862	8.5	-	-
都市ガス以外	3,950	249	6.7	-	-	2,470	473	23.7	-	-
営業利益	1,080	228	26.7	-	-	800	209	35.3	-	-
経常利益	1,020	185	22.1	-	-	850	261	44.2	-	-
当期純利益	650	113	20.9	-	-	610	222	56.9	-	-

(注) 事業間の内部取引高は都市ガス以外の欄で調整しています。

<前提となる経済フレーム>

	今回通期見通し	対前期		対前回(4/28発表時)	
		増 減	増減率(%)	増 減	増減率(%)
原油価格 (\$/bbl)	80.00	10.60	15.3%	-	-
為替レート (円/\$)	95.00	2.11	2.3%	-	-

(注1) 原油価格: 前期実績69.40\$/bbl、前回見通し80.00\$/bbl 原油+1\$/bblの2Q以降への収支影響: △9億円(売上高20億円、原料費29億円)

(注2) 為替レート: 前期実績92.89円/\$、前回見通し95.00円/\$ 為替+1円/\$の2Q以降への収支影響: △7億円(売上高34億円、原料費41億円)